

平成30年度知事を囲んでの意見交換会開催



本会は、12月17日(月)、山形市「ホテルメトロポリタン山形」において、「知事を囲んでの意見交換会」を開催し、組合の役職員等120余名が出席しました。

山形県知事に組合の活動、現状、課題等をお伝えすることにより、組合の重要性の認識を深めていただくことを目的に毎年開催しています。

来賓として、吉村 美栄子 氏(山形県知事)、平山 雅之 氏(山形県商工労働部長)、小宮 亮 氏(商工中金山形支店長)にご出席いただきました。知事のご挨拶の後、本会安房 毅会長が座長となり意見交換を行いました。

今年度は、事業協同組合として山形アパレル工業協同組合と山形県米穀集荷協同組合、山形県中小企業スーパーマーケットサポ事業費補助金採択企業として、酒田米菓株式会社が発表を行い、その後、知事より所感をいただきました。

活動事例発表(発言要旨)



理事 高田 正幸 氏

【山形アパレル工業協同組合】

所 在 鶴岡市日和田町1番3号

組合員数 13社

代 表 者 代表理事 高野 邦夫

組合事業 外国人技能実習生受入に係る職業紹介事業 等

外国人技能実習制度とは・・・

国際貢献のため、開発途上国等の外国人を日本で一定期間(最長5年間)に限り受け入れ、OJTを通じて技能を移転する制度。(平成5年に制度創設)

1 組合としての取組と実施事業

1998年に組合を設立し、中国大連市より外国人技能実習生の受け入れを始めました。当時の中国の工賃は300～400元/月(日本円で5,000～7,000円)位でした。

- ① 中国人にとって、実習生として日本で働く事は憧れで、当時は、技能的に優秀で意欲のある実習生がたくさん集まりました。
- ② 受入事業の継続には組合員の連携が重要で、結果、組合員間でいろいろな交流が生まれ、他地域の縫製工場に比べ優位に仕事を獲得できました。
- ③ 年に2回、実習生を受け入れることで確実な人材が獲得でき、働く戦力は常に確保できました。これにより、組合員の受注、生産性が上がりました。

2 組合事業に取り組んでの今後の課題

- ① 組合員の増加に伴い、必要とする実習生の数も増え、大連市の派遣会社では人材不足となったため、2004年からは中国成都市の派遣会社からも受け入れを始めました。内陸部では、人材が豊富であり、高い技術力がありました。
- ② 2010年以降、中国の発展、人件費の高騰により派遣会社の人材不足を見越し、新たにベトナムに目を向け、2013年よりベトナム人の実習生の受け入れを始めました。現在、受入企業はベトナム(ハノイとホーチミン)の実習生と中国成都の実習生の受け入れをしている会社に分かれています。
- ③ 2017年には、カンボジアにも実習生の受け入れの為、視察に行きました。現在は、他国(韓国・中国・台湾・シンガポール)と受け入れ人材の獲得競争になっています。
- ④ 送り出し国の人件費アップにより、人材確保が難しい時代に入ってきました。

3 将来に向けた今後の対応

山形県のファッション産業は、今後、多くの可能性がある分野だと思います。日本で有数の技術を有する工場も多く、大規模工場も集積しています。国内外の人材を確保して、国内の縫製基地としてアピールできればチャンスが見いだせると思います。

実習生受入制度は新法がスタートしたばかりの為、手続きに時間が掛かり、実習生の生活する寮の規制や色々な細かいケースでしっかりした細則が分からないことが多いため、十分に情報を収集し、的確に対応をして参ります。



代表理事 滝田 俊一郎 氏

【山形県米穀集荷協同組合】

所 在 山形市東籠野町43

組合員数 95社

代 表 者 代表理事 滝田 俊一郎

組合事業 組合員の取り扱う米、雑穀、飼料に関する共同事業並びに斡旋事業 等

1 組合としての取組と実施事業

- ① 米の集荷拡大の趣旨徹底のための全体会議及び県内8ブロックの支部に分けて行う支部会議を各2回行っています。
- ② 農産物検査員の指導のための全体会議を実施しています。